

大阪湾漁場環境速報

平成28年11月3日発行

兵庫のり研究所

栄養塩は全域で $5 \mu\text{g-at/L}$ 以上となっており、各ノリ漁場周辺での栄養塩は十分量で推移しています。湾奥の一部調査地点において、スケルトネマを主体として数種の小型珪藻が多く発生していますが、それ以外の海域では珪藻は確認される程度と少ない状況でした。

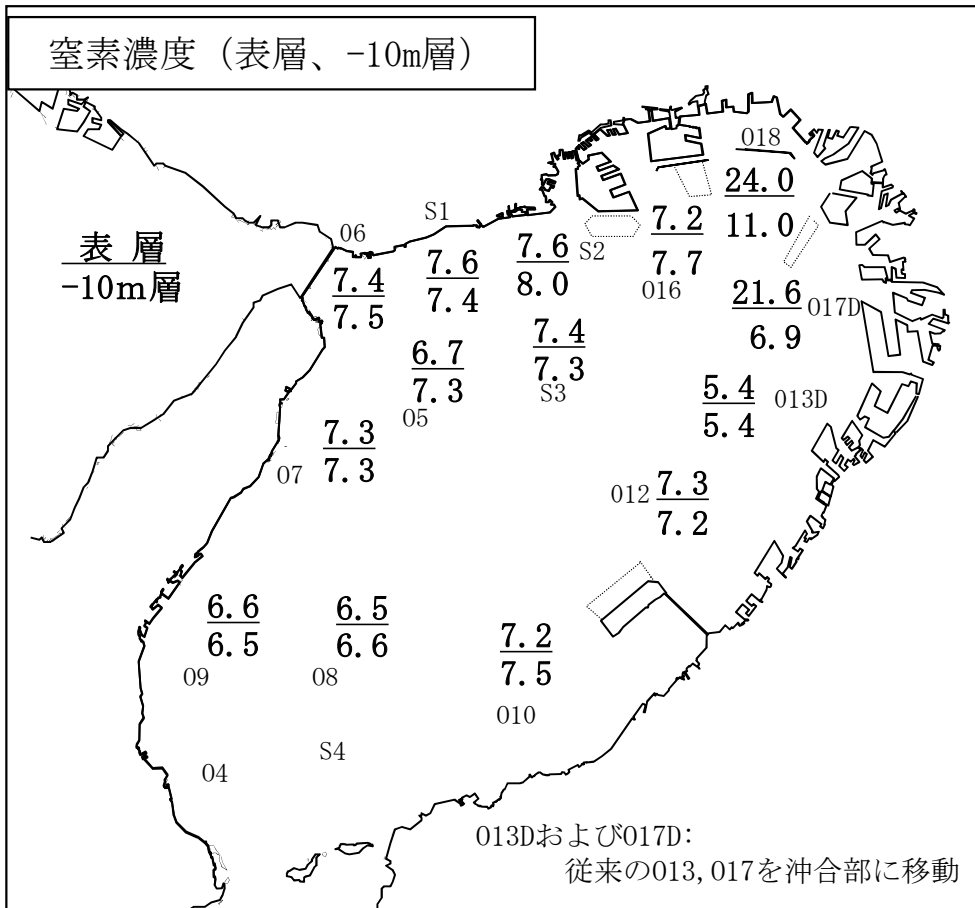
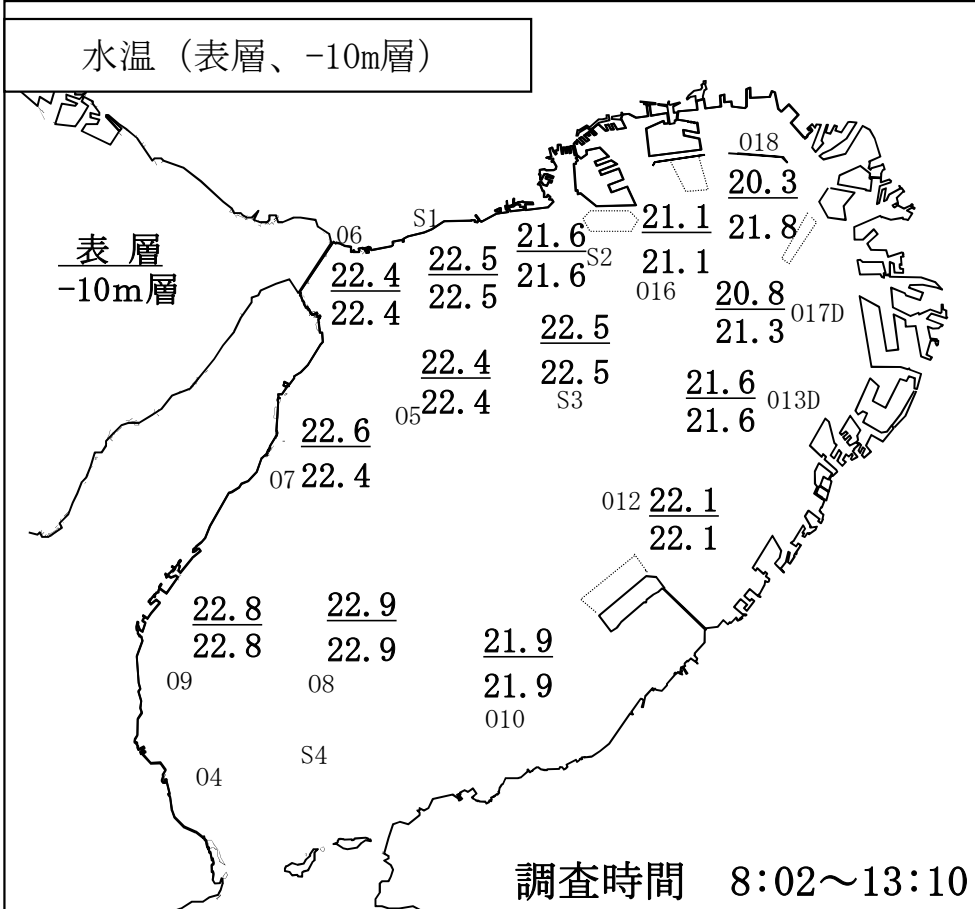
(水温) 表層は湾内 $20\sim 22^\circ\text{C}$ 台で、平均 22.3°C 。平年比約 1.0°C 高い。 -10m 層も平均 22.2°C (平年比 $+0.8^\circ\text{C}$)。

(塩分) 表層平均 32.45psu (平年 32.01)。 -10m 層平均 32.47psu (平年 32.26)。

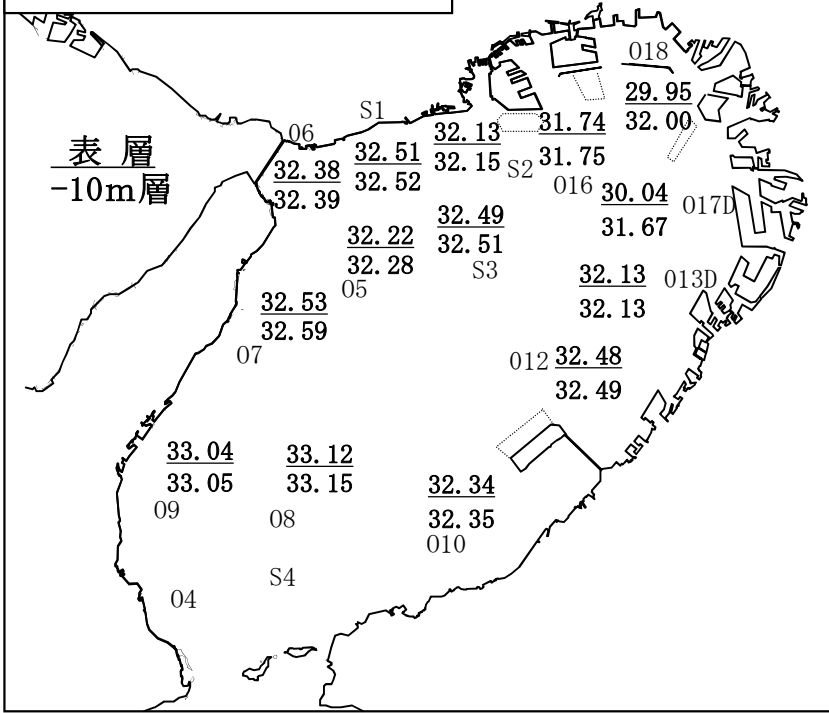
(栄養塩、他) 表層の窒素は平均 $7.2 \mu\text{g-at/L}$ 、リンは平均 $0.58 \mu\text{g-at/L}$ 。窒素・リンともに平年よりやや高い。 -10m 層(平均)は、窒素 $7.3 \mu\text{g-at/L}$ 、リン $0.60 \mu\text{g-at/L}$ 。神戸空港東から湾奥・堺沖にかけて海水の着色が確認され、スケルトネマを主体とした小型珪藻が一部で多く発生していた。大型珪藻のコシノディスカスは少ない状況。播磨灘同様、透明度が平年と比較しやや低く、海域全般に懸濁物質等によるにごりが見られる。

上段 (今回値)	平成28年11月2日調査
中段 (昨年値)	平成27年11月5日調査
下段 (平年値)	11月上旬

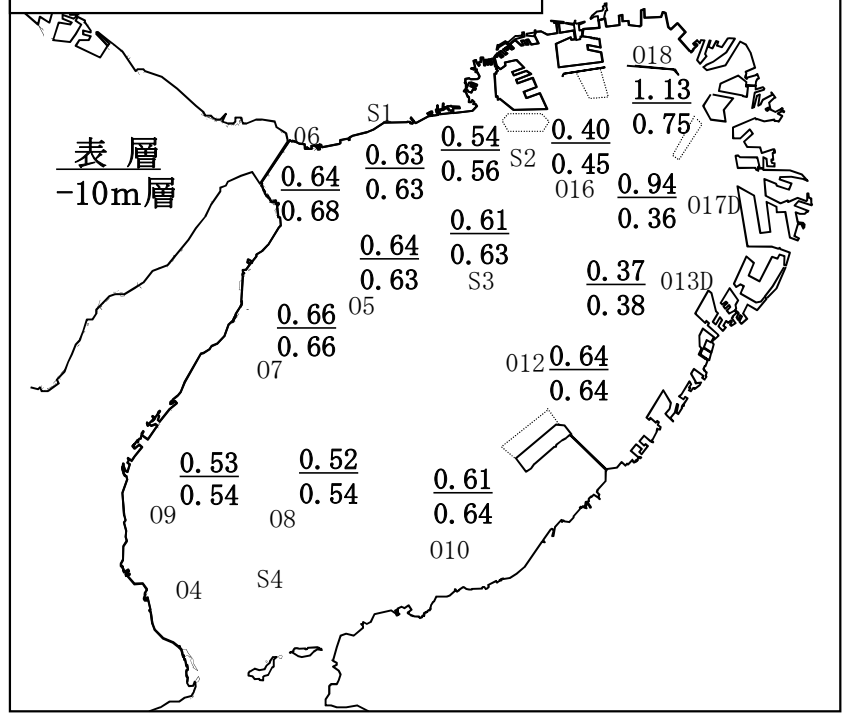
調査地点	水温 (°C)	塩分 (psu)	三態窒素 ($\mu\text{g-at/L}$)	磷酸 ($\mu\text{g-at/L}$)
04	21.0	32.47	5.4	0.47
	21.8	32.79	4.7	0.47
05	22.4	32.22	6.7	0.64
	21.6	32.30	5.4	0.55
06	21.6	32.21	4.9	0.56
	22.4	32.38	7.4	0.64
07	21.0	32.04	5.5	0.60
	21.4	32.15	5.3	0.57
08	22.6	32.53	7.3	0.66
	21.6	32.28	5.2	0.55
09	21.7	32.25	5.1	0.59
	22.9	33.12	6.5	0.52
010	21.3	32.29	4.8	0.52
	21.7	32.52	4.2	0.47
012	22.8	33.04	6.6	0.53
	20.9	32.31	4.5	0.46
013D	21.7	32.58	4.5	0.48
	21.9	32.34	7.2	0.61
016	20.4	31.92	5.6	0.54
	20.9	32.00	4.5	0.44
017D	22.1	32.48	7.3	0.64
	20.1	31.43	5.5	0.53
018	20.8	31.72	3.9	0.40
	21.6	32.13	5.4	0.37
S1	20.2	31.42	5.9	0.57
	20.5	31.20	4.1	0.35
S2	21.1	31.74	7.2	0.40
	19.4	30.41	11.9	0.74
S3	20.0	30.34	10.5	0.53
	20.8	30.04	21.6	0.94
S4	20.7	29.94	21.1	1.14
	20.4	29.27	24.6	0.91
013Dおよび017D:	20.3	29.95	24.0	1.13
	20.5	30.31	19.4	1.36
017D	19.9	28.29	28.3	1.18
	22.5	32.51	7.6	0.63
018	20.4	32.00	5.8	0.54
	20.8	31.68	5.4	0.47
S1	21.6	32.13	7.6	0.54
	19.5	30.94	7.6	0.56
S2	20.2	30.94	6.9	0.45
	22.5	32.49	7.4	0.61
S3	21.2	32.10	5.5	0.54
	21.6	32.17	4.7	0.54
S4	21.4	32.87	5.2	0.48
	21.7	32.73	4.6	0.48



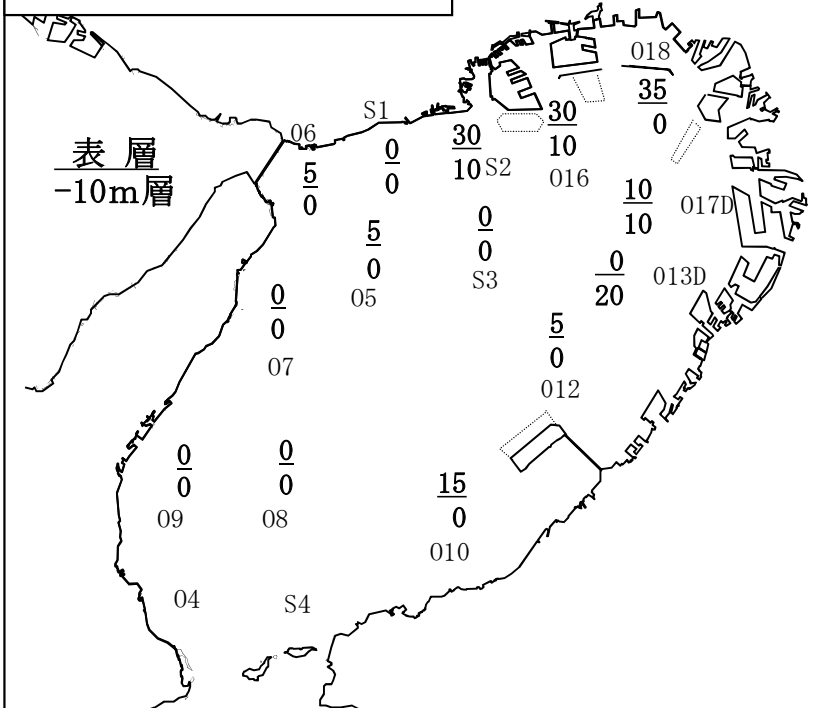
塩分 (表層、-10m層)



リン濃度 (表層、-10m層)



コシノディスカス (細胞/L)



スケルトネマ (細胞/ml)

